



PAWTH

見えない場所にも小さな命があります



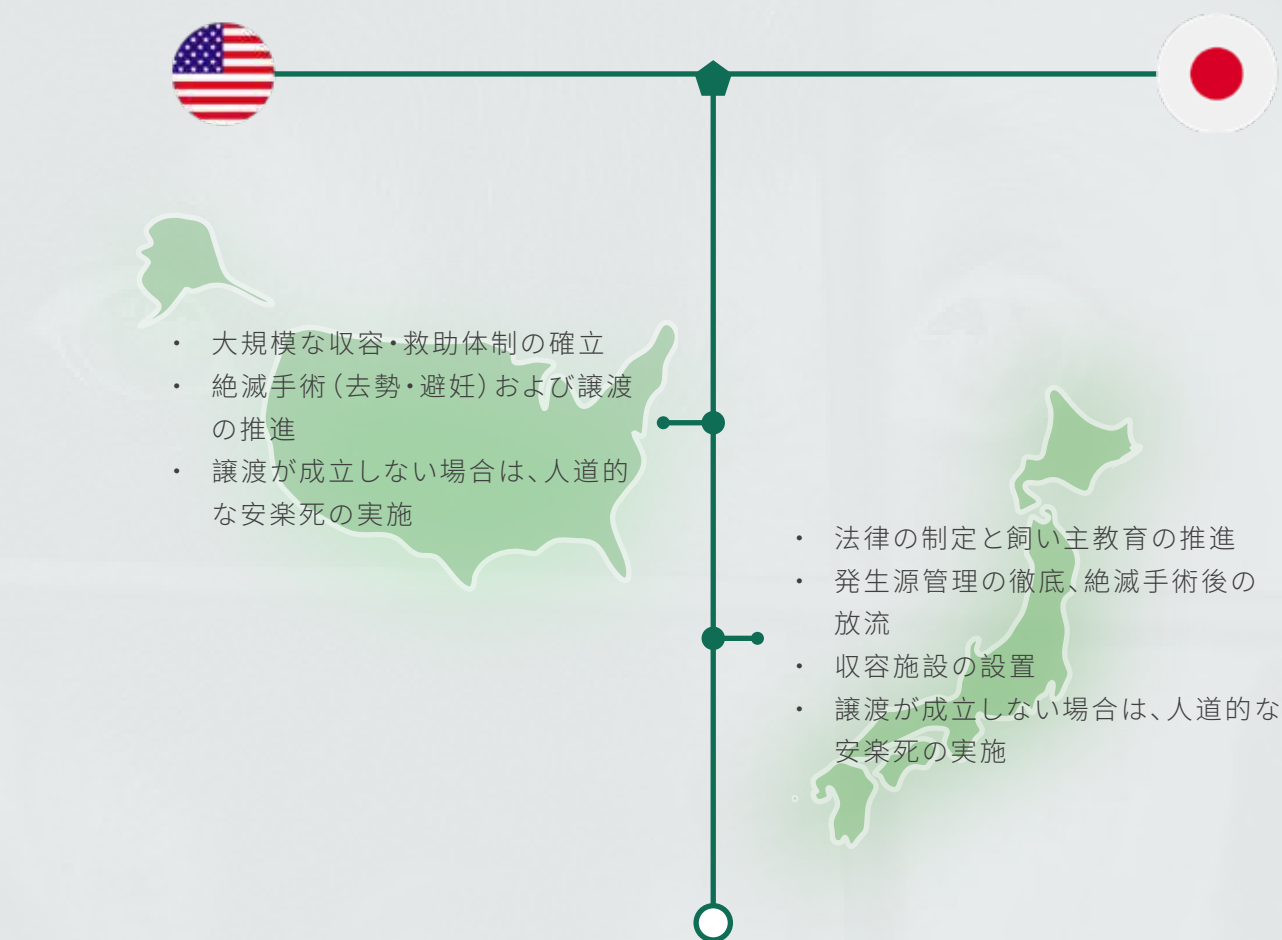
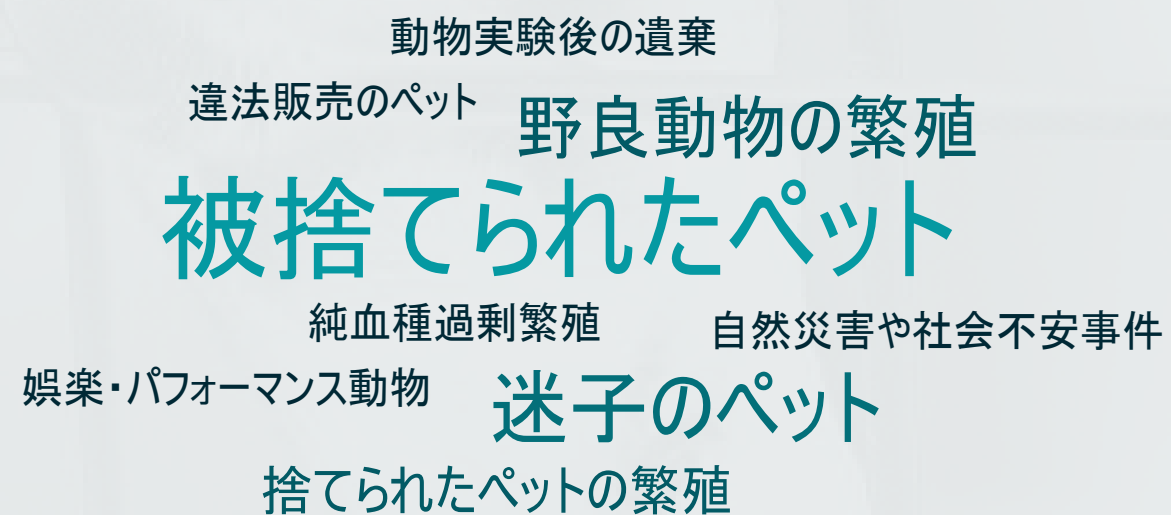
このプロジェクトは、保護された野良動物の収容を支援し、長期的な飼育が難しい人々に有償で一時的に動物を貸し出します
この取り組みは、借り手と動物の心の健康や身体の活力向上に貢献するだけでなく、
貸し出し料金で野良動物の保護活動を支え、長期的に無人での収容による安楽死を減少させることを目指しています



生命の遭遇に注目

世界には約3億6200万匹の野良動物がありますが、人手と資金が不足しているため、保護施設に入ることができるのはごく一部です。

野良動物の主な発生原因は、飼い主による遺棄、予期せぬ繁殖、ペットの迷子などで、特に遺棄が約40%を占めています。

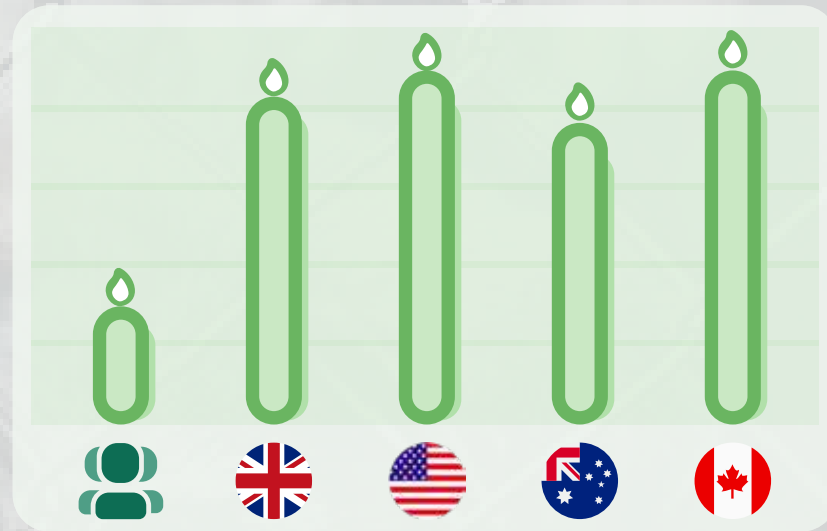


各国の流浪動物対策は多様であるが、最終的には「収容し、譲渡を待つ」という方法が採用されている。
なお、収容後も長期間譲渡が成立しない場合は安楽死処置が行われる。



動物医の精神的トラウマ

動物を愛するがゆえに動物医の職業を選んだのに、多くの動物に安楽死を施さなければならないことは、動物医に深刻な心理的ダメージを与えます。



一部国における動物医師と一般人の自殺率比較

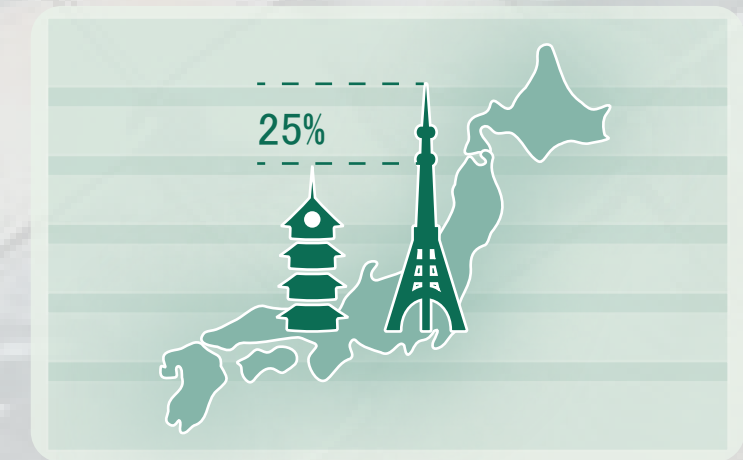
日本の学術界においても、動物の安楽死過程における獣医師の心理的負荷を検討した研究が発表されており。

『獣医学雑誌』に掲載された「安楽死に伴う獣医師の心理的ストレス」という報告があります。



都市の居住ストレス

低い社会的交流、孤独な生活環境、狭い居住空間、交通騒音などが心理的健康に悪影響を及ぼすことも示されている。



日本の調査「都市部におけるストレスと健康状態に関する調査（2018年）」では、都心の平均心理的負荷は地方に比べ25%高いとされる。

野良動物の窮状

動物数は増加し、管理・救助資源が不足し、多くが安楽死に追い込まれています。

市民の需要ギャップ

動物愛好者は多いものの、住環境や生活負担により、長期飼育が困難です。

資源不足

収容施設は経費不足で、長期保護が困難です。

連携不足

現行の体系間では、良性の相互作用と資金の拡充が実現していません。



研究計画

データおよび文献 の収集

公的機関、自治体、関連団体

報道メディア / ニュース報道

学術検索

市場およびユーザー 需要の調査

サービス対象者と
ターゲットユーザー

都市の単身者、会社員、
心理的ストレスの高い層

動物に興味があるが、
居住環境や経済的理由で
長期飼育ができない人

120部のアンケートを
配布して調査を実施する

関係者へ のインタビュー

動物保護関係者

一般都市住民

心理学関係者

競合分析 およびビジネスモデル の分析

野良動物収容所 / 保護施設

ペットカフェ

結果の分析

現状評価

ユーザーニーズ調査

ビジネスモデルの検証



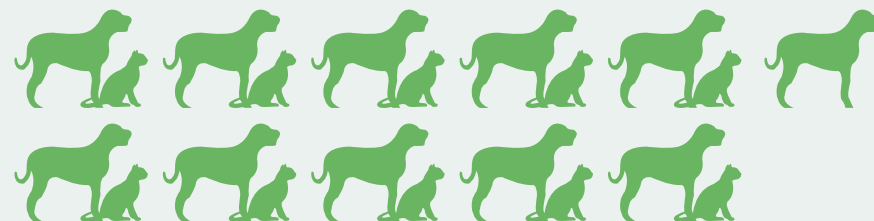
データおよび文献の収集

本プロジェクトでは、公式データ、ニュース調査、文献を基に初期の理解と整理を行いました。

以下、補足説明をいたします。

より効果的な捨て犬対策および捕獲・去勢・放流などの源頭管理手法により、日米間で野良動物数の格差が拡大し、安楽死処置の件数にも影響が出ています。

アメリカの獣医師は年間平均約90件の安楽死処置を行うのに対し、日本では約7～8件にとどまっています。



既収容動物が最終的に安楽死に至る主な要因



収容施設の資源不足



養子縁組率の低さ



動物の健康状態

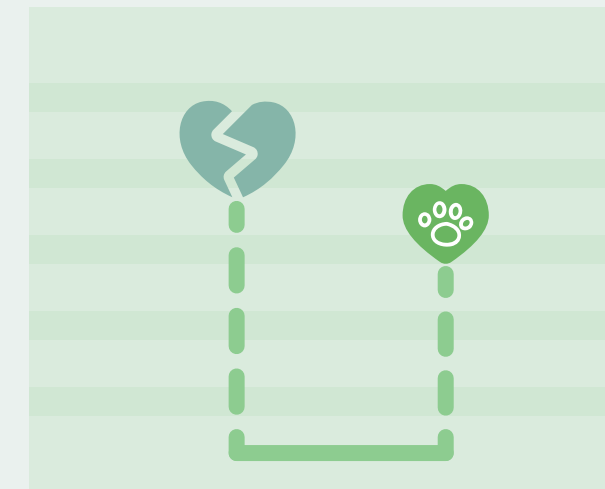


動物の心理问题

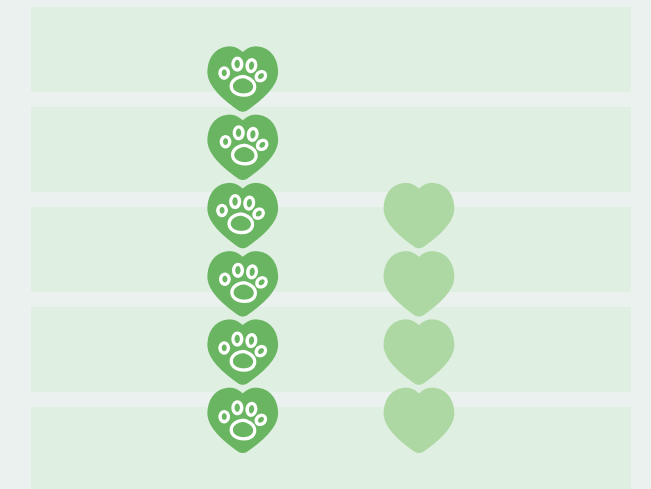
日本《ペットと心理の健康》に関する研究報告によれば：

都市生活者のうち、ペットを飼う人は非飼育者に比べ平均で10～15%低い心理的ストレスを感じ、自己評価による幸福感は約20%高いとされています。

日常の散歩や社交活動の増加が情緒の安定に寄与しているとのことです。



ペット飼育者うつ症状の低減 (約15～20%)
《Journal of Psychiatric Research》



ペット飼育者幸福感の向上 (約30%)
アメリカ テキサス大学

政策と結果の乖離：

- 大規模な収容システムが整備されても、資源の限界から安楽死が実施される現状がある。
- 野良動物の数と安楽死処置件数は正比例の関係にある。
- 動物とのふれあいは、心理的健康に積極的な効果をもたらす。



市場およびユーザー需要の調査

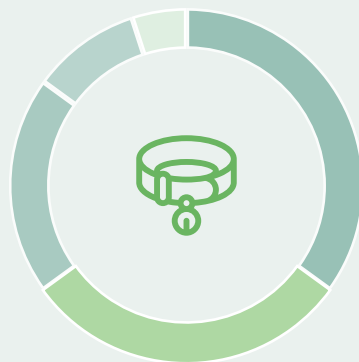
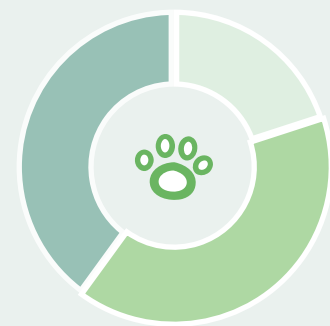
ターゲットユーザーである都市住民の実際のニーズ、心理状態、動物レンタルサービスに対する受容度、希望レンタル時間、価格感度などを把握するため、アンケート調査を実施しました。

※アンケートは120部配布し、110部が有効回答となりました



- 動物飼育の意向あり
- 動物飼育の意向なし
- 状況に応じて

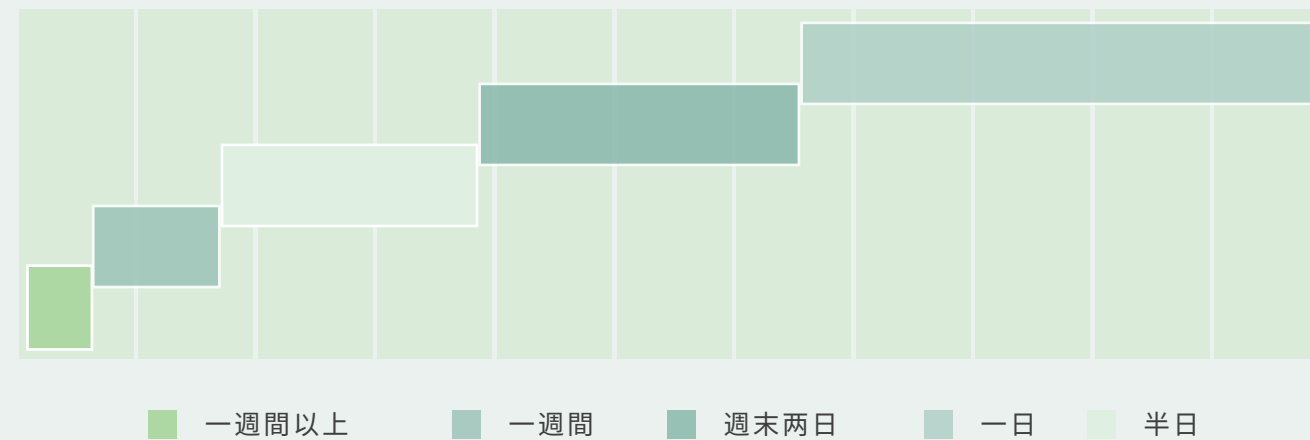
住環境や時間的制約によりペットの長期飼育が困難な場合、短期レンタルサービスを試してみたいと思いますか？



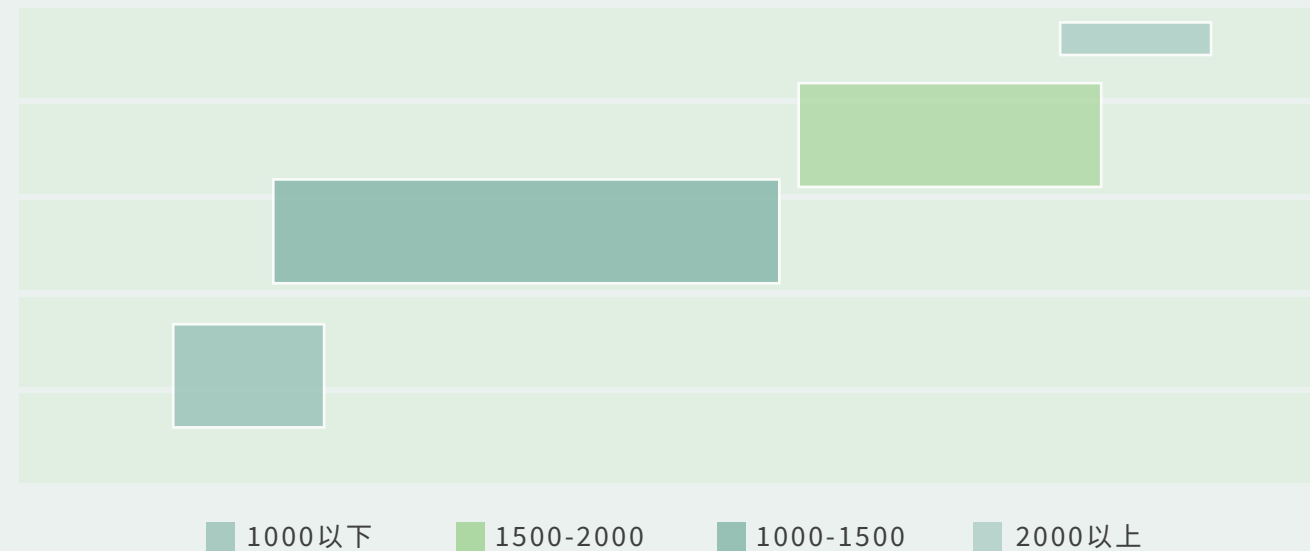
ペットとの触れ合いが心理的ストレスの軽減や情緒改善に効果があると感じますか？



希望するペットレンタルの期間は？



ご負担可能なペットレンタル料金は？



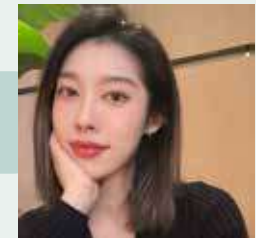
関係者へのインタビュー



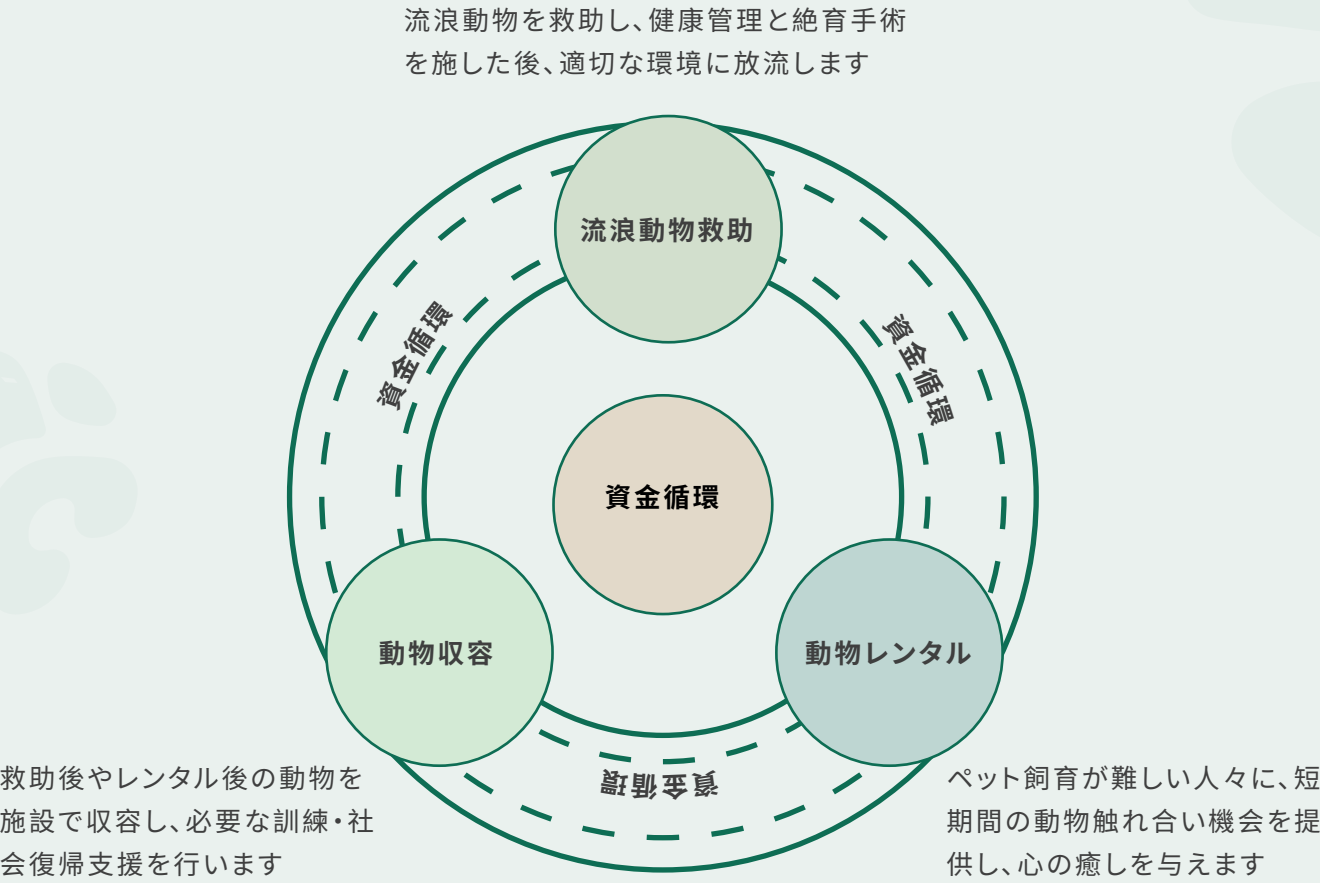
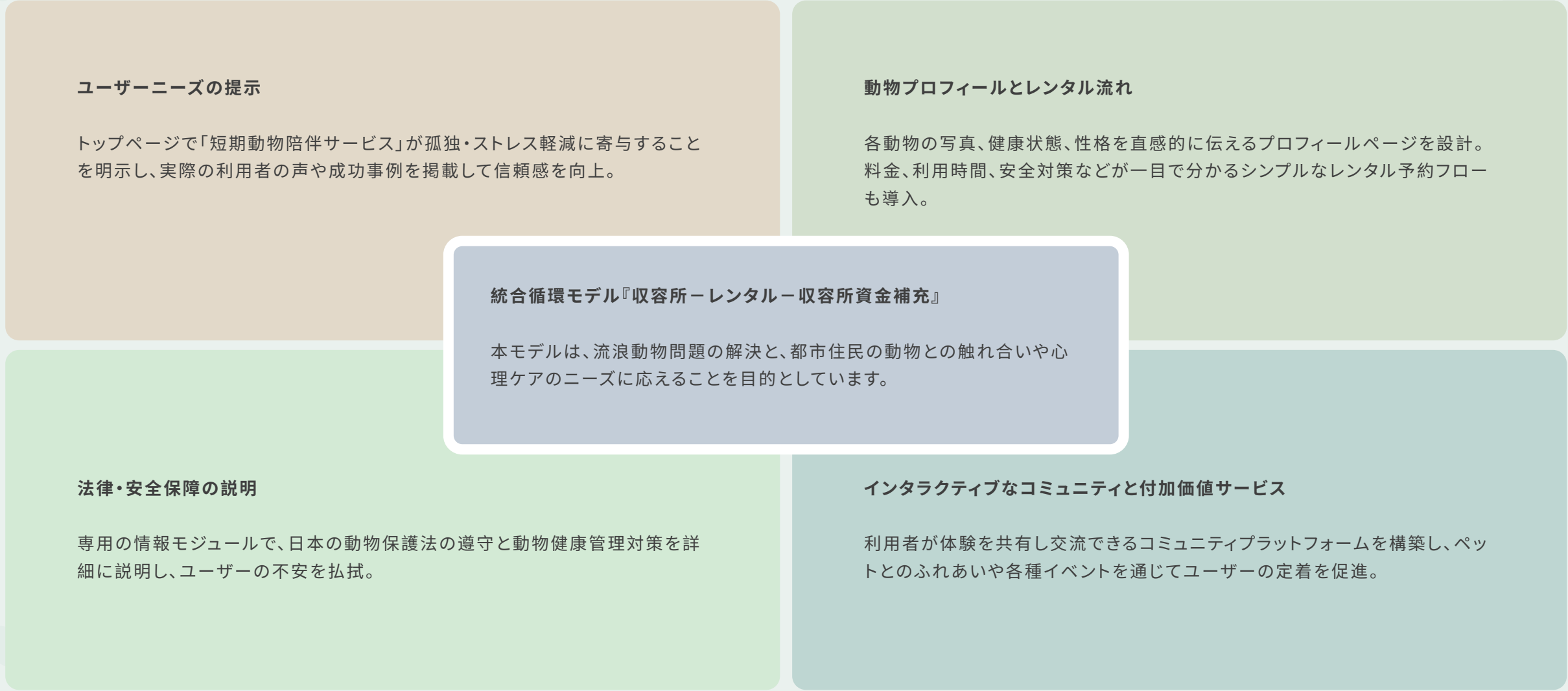
野良動物の収容・救助に携わり、施設運営に精通。
動物の社会復帰にも独自の見解を持つ。

- 都市の野良動物問題は依然深刻で、減少の兆しはありません。
- 不妊手術を進めていますが、安楽死は避けられない状況です。
- 最大の課題は飼い主の意識、資金、人手不足です。
- 朗報として、野良動物の譲渡受け入れが広がっています。
- ペットレンタルでは、人と動物双方の安全確保が重要です。
- 利用者には監督体制と基礎知識の教育が必要です。

都市の心理相談クリニックに勤務し、都市住民のメンタルヘルスを専門とする心理カウンセラーです。



- 動物介在療法は心理治療で一般的な手法である。
- 都市生活のストレス緩和に動物の存在は有効で、短期的な触れ合いが心理状態の改善につながる。
- 頻繁な動物の入れ替えによる情緒不安定を防ぎ、事前評価や心理サポートを導入する。
- 心理評価やペット交流イベントを実施し、継続的なつながりと支援ネットワークを強化する。

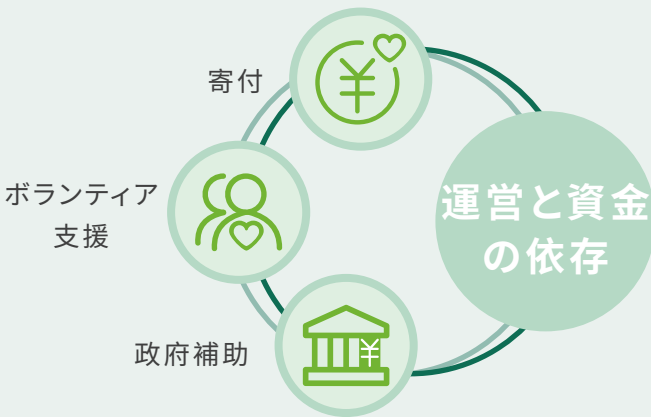
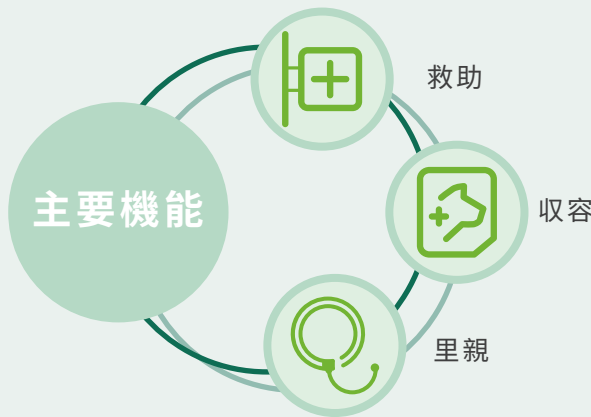




競合分析およびビジネスモデルの分析



動物収容所／保護施設
公益性・非営利性



運営の制約

多くの機関が資源不足、運営効率の低下、動物の人間的管理の不十分さに直面しており、社会向け情報化が進まず、継続的な交流や市民参加の仕組みが構築しにくい。

強み (Strengths) <ul style="list-style-type: none">強い公益イメージと高い社会信頼度政府や公益団体からの支援が厚い	弱み (Weaknesses) <ul style="list-style-type: none">運営資金と人材が不足している社会との交流およびユーザー体験の仕組みが欠如している
機会 (Opportunities) <ul style="list-style-type: none">社会全体で動物福祉および人文的ケアへの意識が高まっている世論が動物保護への社会参加を支持し、社会的支援が得られる可能性がある	リスク (Threats) <ul style="list-style-type: none">管理不行が、動物福祉問題への市民関心を喚起する可能性がある市場の他形態動物交流サービス（例：ペットカフェ）が魅力として競合する



ペットカフェ
商業化および競争性



SWOT分析

強み (Strengths) <ul style="list-style-type: none">明確な収益モデルとブランドマーケティング戦略即時性があり、リラックスした交流体験を提供し	弱み (Weaknesses) <ul style="list-style-type: none">サービス時間が限定され、長期の付き添いは困難動物福祉と健康管理には監督リスクが伴う賃料・設備・研修等のコスト負担が大きく、利益率は市場変動に左右される
機会 (Opportunities) <ul style="list-style-type: none">都市住民の新奇な体験や感情的な付き添いへの需要が増加している展示会やペットテーマイベントなど、複合的体験モデルへの展開が可能	リスク (Threats) <ul style="list-style-type: none">同業間の競争が激しく、新規参入者が次々と革新的モデルを打ち出している



結果の分析

差別化戦略

公益と商業の融合

- 動物収容所の公益精神を継承し、ペットカフェに類似した交流体験を導入
- 「収容－訓練－レンタル」モデルにより、公益性と商業運営を有機的に統合する

継続的な交流メカニズム

- 短時間のペットカフェとは異なり、短期レンタルと長期的な交流データのフィードバックでユーザーの持続的な感情結びつきを形成
- 同時にレンタル収益を活用して動物の生活環境を改善し、里親への転換を促進する

競争優位性

資金の持続可能性

レンタルと付加価値サービスにより安定収益を確保し、収容施設の運営資金不足を緩和

高水準の動物管理

専門的な訓練と健康モニタリング体制を基盤とし、動物福祉基準を向上

異業種連携

政府、動物保護団体、心理健康専門家と連携し、公益性と商業的魅力を兼ね備えたビジネスを構築

ビジネスモデルキャンバス (Business Model Canvas)

バリュープロポジション (Value Proposition)

- 都市住民に向けた、専門的で信頼できる短期ペット付き添いサービスの提供による心理的ストレスの緩和
- 保護動物への高品質なトレーニングと健康管理を通じた譲渡率向上
- 公益とビジネスを融合した持続可能な資金循環モデルの構築

顧客セグメント (Customer Segments)

- 都市部でペットを飼いたいが長期飼育が難しい人々
- 動物福祉や社会貢献に関心を持つ消費者
- 企業のCSR活動や社会団体としての協賛者

チャネル (Channels)

- オンラインプラットフォーム/アプリによる予約、動物プロフィール閲覧、コミュニティ機能
- 実店舗や提携動物保護施設での体験型サービス

顧客関係 (Customer Relationships)

- カスタマイズサービスと会員制度を導入し、定期的なフィードバックと関係構築を実施
- コミュニティ交流、ユーザーイベント、事例共有によるエンゲージメント強化

収益モデル (Revenue Streams)

- ペットレンタル料金 (時間単位・プラン別料金)
- 付加価値サービス (健康モニタリング、ペットケア指導、オフラインイベント参加費)
- 政府補助金、寄付、スポンサーシップ

主要リソース (Key Resources)

- 動物保護・トレーニング施設
- 動物健康管理・トレーニングの専門チーム
- ITプラットフォームとブランドマーケティング資源

主要活動 (Key Activities)

- 動物の保護、トレーニング、健康管理、レンタルプロセスの標準化
- ユーザーサービスの運営とプラットフォーム管理
- パートナーシップの構築と異業種連携の推進

主要パートナー (Key Partnerships)

- 動物保護施設
- ペットカフェ、ペット関連サービス企業
- 行政機関、NPO団体、心理カウンセラー

コスト構造 (Cost Structure)

- 動物の保護・トレーニング・健康管理費
- プラットフォーム開発・運営・マーケティング費用
- 人件費、法務コンプライアンス、保険、安全対策費



生活変動と情緒サポートを求める独身者

佐藤美香

年齢：35歳

職業：フリークリエイター

居住地：東京都郊外の小型マンション

情緒支援型ソーシャルクリエイター

変動する生活の中、不安定な状況に左右されず、活かして心の癒しを即座に得られる解決策が求められている。

背景とライフスタイル

最近の生活の変化で、以前家で飼っていた子犬を思い出し、悲しい時には子犬の優しい慰めに救われた。

- ・ ライフスタイルは柔軟だが、恋愛や仕事の変動により孤独を感じている
- ・ 動物が大好きだが、経済状況や生活の不安定さから、長期的なペット飼育の責任を負うことが難しい
- ・ 自身のSNSを活用し、ライフスタイルの体験やコミュニティでの交流を重視している

決定を妨げる要因

生活の変化 → 経済的プレッシャー → 動物福祉への心配
→ 信頼できる持続的な解決策の必要性

期待するプロダクト機能

- ・ 温かい交流コミュニティで体験共有・投稿・イベント参加を促進。
- ・ レンタルプロセスを透明化し、規則・健康チェック・保険情報を明示。
- ・ パーソナライズ推薦と予約機能でカスタマイズ体験を提供。
- ・ 活発な評価システムとフォーラムで信頼と帰属意識を構築。



都会の一人暮らしの即時的なストレス解消ニーズ

リ・メイ

年齢：30歳

職業：ITエンジニア

居住地：東京都心のワンルームマンション

ストレス解消型デジタルネイティブ

生活空間を圧迫せず、手軽に癒しを得られる解決策が求められている

背景とライフスタイル

夜の残業帰りに、犬の散歩をしている人を見かけました。とても活発で可愛い犬だったので、もし可能なら、私もその犬と一緒に散歩してみたいと思いました。

- ・ 東京で一人暮らし。仕事は忙しく、残業が多いため生活リズムが不規則
- ・ 居住スペースが限られており、長期的なペット飼育は難しい
- ・ テクノロジーが好きで、日常生活の管理をアプリやオンラインプラットフォームで行う習慣がある

決定を妨げる要因

居住制約 → 責任への不安 → 時間の断片化
→ 即時に信頼できる解決策が必要

期待するプロダクト機能

- ・ ペットの詳細なプロフィール表示（写真、健康記録、性格紹介など）。
- ・ 簡潔で使いやすい予約と支払いプロセス。
- ・ 法的遵守と安全保障に関する明確な情報提供。
- ・ レンタル後のフィードバックと健康モニタリング機能。



感情的な寄り添いと心理的サポートの提供



シンプルかつ直感的な操作導線



コミュニティ形成とユーザーフィードバックの活用

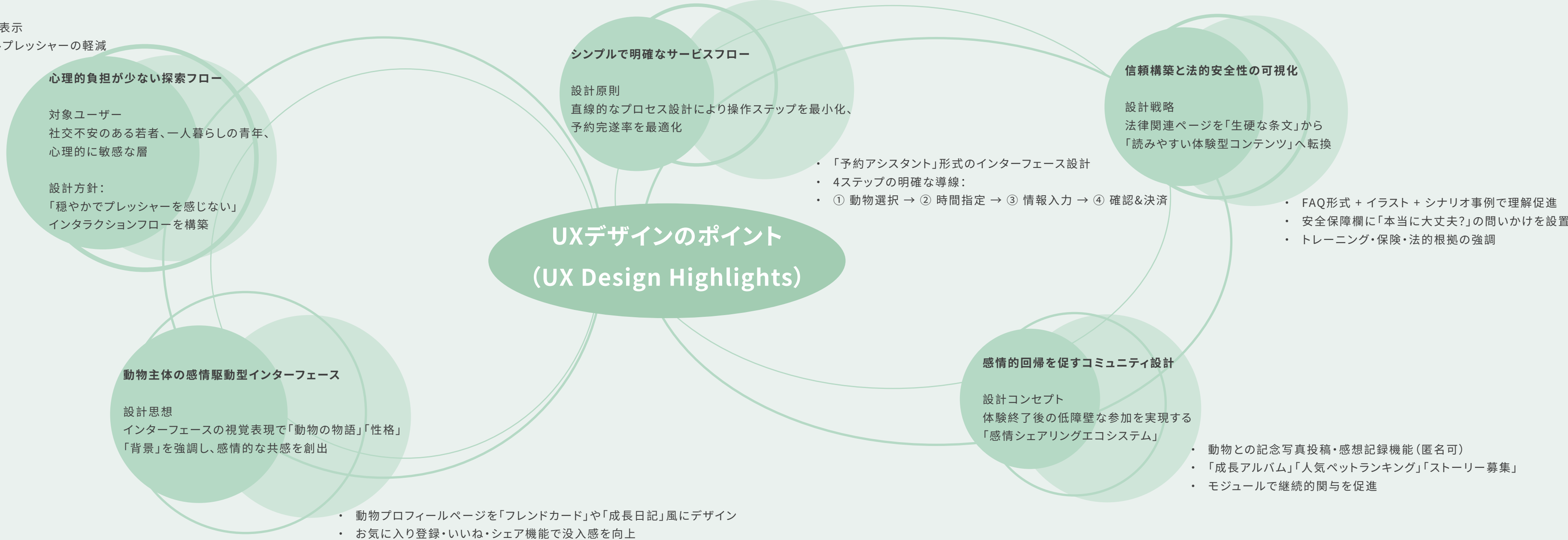


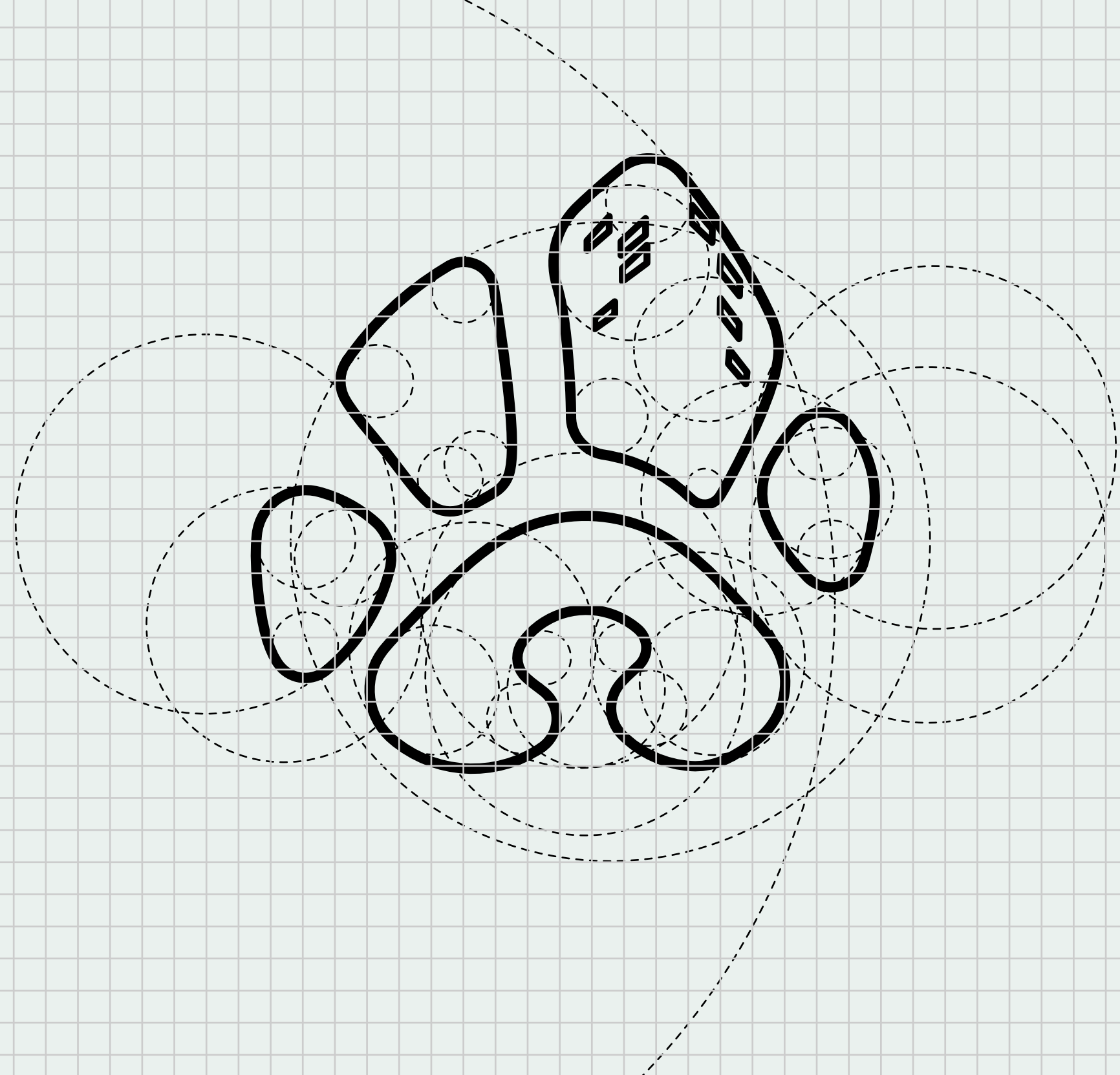
安全性と法的信頼性の可視化



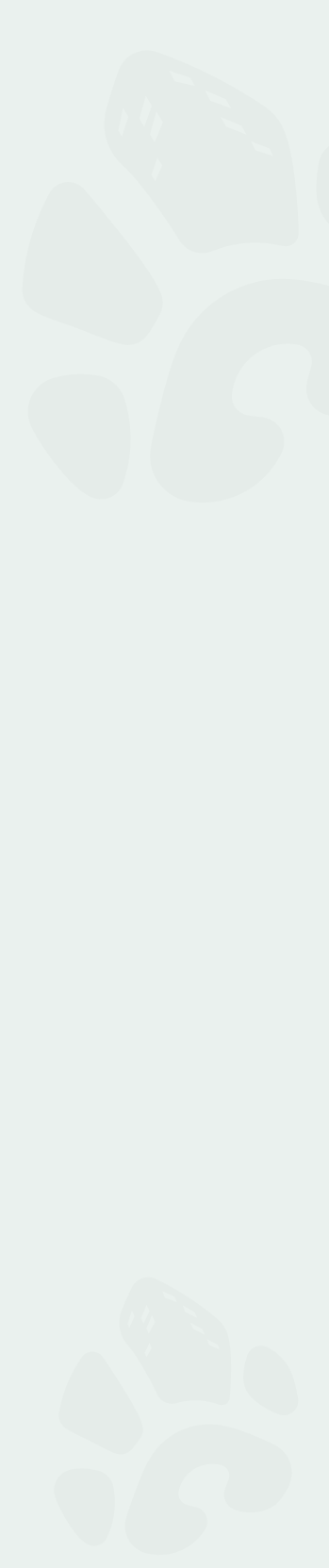
情報の網羅性と視認性の両立

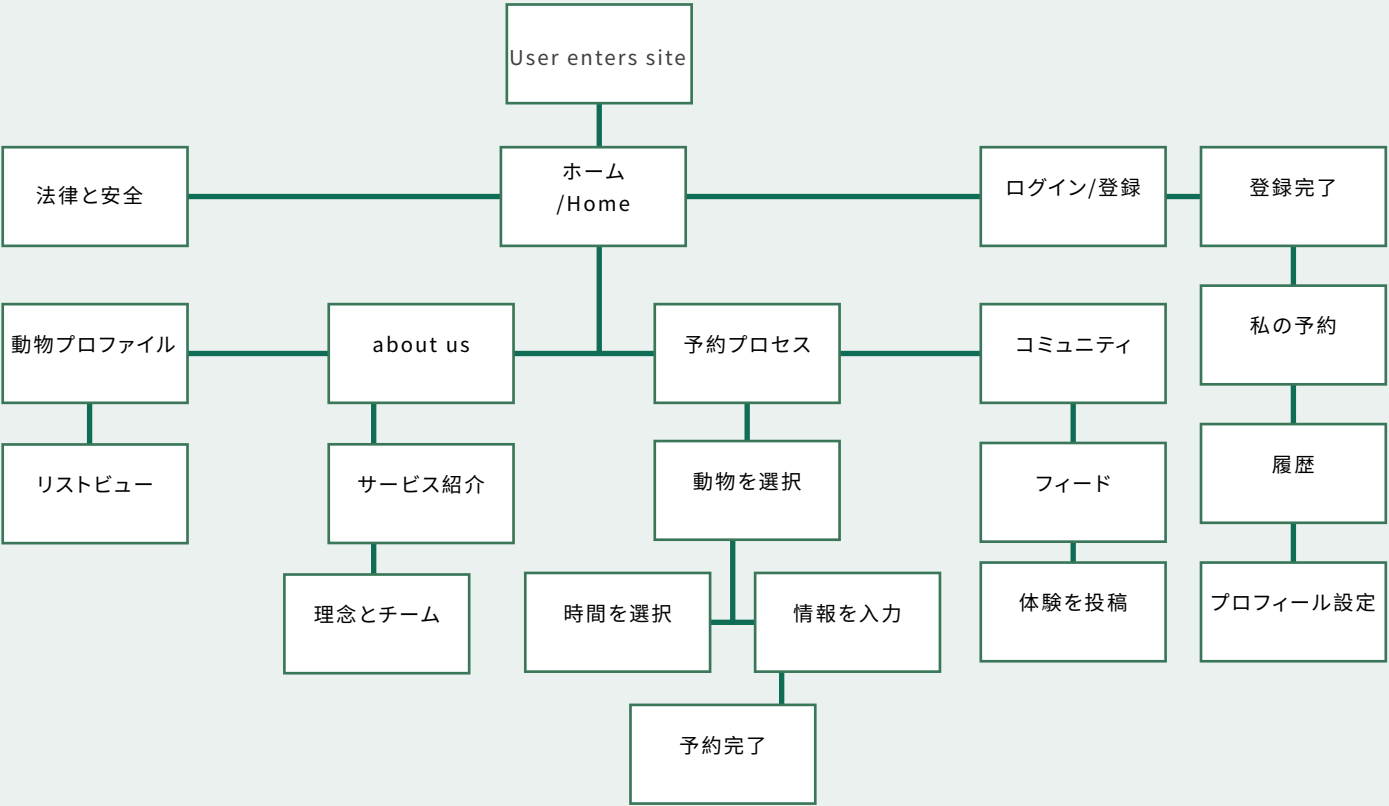
- ・ ガイド付き予約システムの導入
- ・ ユーザーコンテンツのデフォルト匿名表示
- ・ 「静的な同伴モード」によるソーシャルプレッシャーの軽減





ペットを象徴する「爪痕」と、都市生活を表現する「建築物の輪郭」を融合させたデザインです。形態のみで評価した場合でも、そのシンプルながらも力強い構造は、都市の洗練とペットの温かみ、さらには利用者が求める感情支援のエッセンスを的確に伝えています。全体として、どの角度から見ても明確な視認性と識別性を実現しており、プロジェクトの理念を一目で理解できる点が特徴です





本プロジェクトは、ペット短期間レンタルサービス向けに、温かい感情と直感的な操作体験を兼ね備えたプラットフォームの構築を目的としています。デザインは、ペットエレメントと都市シンボルの融合により、感情的支援と心理的癒しという核となるコンセプトを表現。

さらに、シンプルで直感的な予約プロセスを採用し、ユーザーの利便性を高めています。同時に、健康記録、保険、法務保証の情報を明確に提示することで安心感を強化し、分かりやすい情報表示とユーザー交流機能により、帰属意識と双方向のコミュニケーションが促進されます。

全体として、本サイトは都市生活と感情サービスの完璧な融合を実現し、卓越した視認性とユーザー親和性を具現化しています。

